

原子力災害からの 福島復興の進捗について

平成30年12月
原子力被災者生活支援チーム

復興推進会議(平成30年3月9日 安倍内閣総理大臣)



「明後日で東日本大震災から丸7年となります。**東日本大震災からの復興は、内閣の最重要課題**です。

(中略)

福島では、帰還困難区域を除くほとんどの地域で避難指示が解除され、帰還困難区域では、特定復興再生拠点の本格化する整備が始まっています。

福島イノベーション・コースト構想もいよいよなど、復興・再生に向けた動きが進んでいます。

この動きを加速させていく上で、今なお続く風評の払拭が、大きな課題です。

私自身、首脳会談などの機会に農林水産物・食品の輸入規制の撤廃・緩和を働きかけ、既に、27カ国で規制撤廃が実現しました。

関係閣僚におかれては、さらなる風評払拭に向け、昨年12月に策定した「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」に基づき、放射線に関する正確な情報等を効果的に発信するよう、政府一体となり、工夫を凝らして取り組んでください。

また、福島の復興を進める上で大前提となるのが、東京電力福島第一原発の安全確保です。国も前面に立って、安全かつ着実な廃炉・汚染水対策に取り組んでまいります。

他方で、今なお多くの方々が避難生活を余儀なくされています。

このため、心のケアなど、復興のステージに応じたきめ細かな被災者支援、住まいとまちの、着実な復興、観光振興や販路開拓等を通じた、産業・なりわいの再生、原発事故災害からの復興・再生など、現場の課題に一つ一つ丁寧に対応していく必要があります。

「東北の復興なくして、日本の再生なし」

「閣僚全員が復興大臣である」という意識を改めて共有し、被災者の方々の心に寄り添いながら、みずからの持ち場で全力を尽くすよう、改めて指示をいたします。」

安倍総理大臣 福島被災市町村視察（平成30年11月24日）

「ここ双葉駅前を中心として、この双葉町においても、特定復興再生拠点と整備がいよいよ動き始めます。この福島県におきましても、復興は着実に一步一步進んでいると実感いたしました。

また、富岡町ではこの春から救急医療のための医療施設が動き出しました。正に、医療は生活の根幹であります。住民の皆様が安心して帰還していただくためにも、医療を始め生活インフラの整備に国としても、全力を挙げていきたいと考えています。また、さらに産業・生業（なりわい）の復興なくして再生はないわけでありまして、ここ双葉町でも国の立地補助金を活用して、航空宇宙分野でも活用される炭素繊維の工場の立地が予定されるなど、正に未来につながる新しい企業立地が進んでいる。新たな企業立地が進んでいることを、うれしく思います。

そして、2020年春に予定されるＪＲ常磐線の全線開通の機会を捉えて、双葉駅周辺の避難指示の一部解除に向けて立地補助金を活用した生業の再生などにも、国として全力を尽くしていく考えであります。

そして、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。この後、バツ八会長と共に、あづま球場を訪れる予定でございますが、正に日本が、福島が、復興した姿を世界に発信していきたいと、こう考えています。福島の再生なくして、日本の再生なし。この強い決意の下に2020年の福島復興再生期間にとどまることなく、その後も変わることなく福島が復興が成し遂げられるその日まで国が前面に出て全力を尽くしてまいります。」



ＪＲ双葉駅前にて（右は伊澤双葉町長）

経済産業行政における福島復興の位置づけ

「福島の復興は、経済産業省の最重要課題です。帰還困難区域を除き、ほぼ全ての避難指示が解除されており、住民帰還や生活再建に向けて、引き続き福島イノベーション・コースト構想の推進、福島相双復興官民合同チームを通じた事業・なりわいの再建等に取り組むとともに、再エネ由来水素の製造・貯蔵等の実証など、新たな産業の創出に向けて取り組んでまいります。福島第一原発の廃炉・汚染水対策については、昨年9月に「中長期ロードマップ」を改訂しました。安全確保の最優先・リスク低減重視の姿勢を堅持しつつ、地域・社会とのコミュニケーションを一層強化しながら、安全かつ着実に取組を進めてまいります。」（世耕経済産業大臣年頭所感（2018年））

第一の柱：データを核としたオープンイノベーションの推進によるSociety5.0の実現

Connected Industries 推進と、第四次産業革命に対応した新たな経済社会システムの構築

1. 個別戦略分野におけるイノベーションの推進

- ✓ Connected Industries の推進
- ✓ キャッシュレスの推進による消費データの活用
- ✓ 空飛ぶクルマの実現等に向けた高度な製造技術・データの活用

2. イノベーションを生み出す産業基盤の強化

- ✓ J-Startupを中心としたスタートアップエコシステム強化
- ✓ AI実装/研究開発/人材育成・活用
- ✓ サイバーセキュリティや産業安全保障の向上
- ✓ プラットフォーム型ビジネスに関するルール整備
- ✓ 官民のデジタルトランスフォーメーション

産業・通商・地域政策の一体的な推進

第二の柱：新たな「ルールベース」の通商戦略

- ✓ 市場歪曲的措置、保護主義的措置への対抗（三極大臣会合、WTO等活用）
- ✓ 包摂的な経済成長に資する多角的な通商関係の構築

第三の柱：地域・中小企業の新たな発展モデルの構築

- ✓ 地域の稼ぐ力の強化・インバウンド拡大
- ✓ 中小企業等の担い手確保
- ✓ 中小企業等の生産性向上・働き方改革
- ✓ 消費税率引上げ対応

第四の柱

エネルギー転換等を通じた環境と成長の好循環 （グリーン成長戦略）

- ✓ エネルギー転換・脱炭素化イノベーション・投資促進
- ✓ 水素社会実現
- ✓ 国際連携

第五の柱

成長と分配を包括した新たな経済社会システム

- ✓ 産業人材育成・活用（EdTech、リカレント等）
- ✓ 社会保障を支える民間ビジネス

福島復興の加速 / 西日本豪雨など大規模災害への対応

福島への復興に向けた取組

- 平成29年春までに、大熊町・双葉町を除き、**全ての居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除**。
また、帰還困難区域内の特定復興再生拠点についても、策定を進めていた全ての町村の計画を認定。
- 避難指示が解除された地域を中心に、**地域の活力による、なりわい再建や新産業創出**が進む。

生活の再建

避難指示解除・ 特定復興再生拠点の整備

- ・**避難対象者数は約2.4万人**（平成30年4月時点）。平成25年8月の区域設定時から約5.7万人減。
- ・**特定復興再生拠点**につき、策定を進めていた全ての町村について計画を認定し、除染・インフラ整備が開始。概ね5年後の特定復興再生拠点の解除を目指す。

生活環境の整備

- ・平成30年4月から、葛尾村、飯舘村、川俣町、富岡町、浪江町で**幼稚園・こども園や小・中学校**が開設・再開され、避難指示が解除されたすべての市町村にて学校が再開。
- ・同4月から、2次救急医療施設である**ふたば医療センター附属病院（富岡町）**も開院。
- ・同7月・8月には、それぞれ**富岡消防署・浪江消防署**も新庁舎で開署。

地域の活力・コミュニティの再生

- ・平成30年夏にはコンパクトタウン**笑ふるタウンならは**内の商業施設**ここなら笑店街・交流館ならはCANvas（楡葉町）**が開業。**復興交流館あぜりあ（葛尾村）**も開館。
- ・同7月にはサッカートレーニング施設**Jヴィレッジ（楡葉町・広野町）**が一部開所し、平成31年4月の全面再開を目指す。
- ・同8月には、県の重要無形民俗文化財である**麓山の火祭り（富岡町）**が8年ぶりに開催。

福島の復興

事業・なりわいの再建

- ・被災12市町村における**帰還再開率は29%**（平成30年11月時点 ※平成29年11月は27%）帰還再開や新たな販路・顧客の開拓に挑戦する事業者が増加中。
- ・**福島相双復興官民合同チーム**（平成27年8月～）は、約5,200の事業者と約1,400の農家を個別に訪問し、多様なニーズを踏まえたきめ細かな個別支援を実施中。
- ⇒避難指示が解除されたばかりの地域（浪江、飯舘）で再開する飲食店、双葉に戻ったガソリンスタンド、販路の開拓に成功した田村（都路）の製菓店等々

新産業の息吹

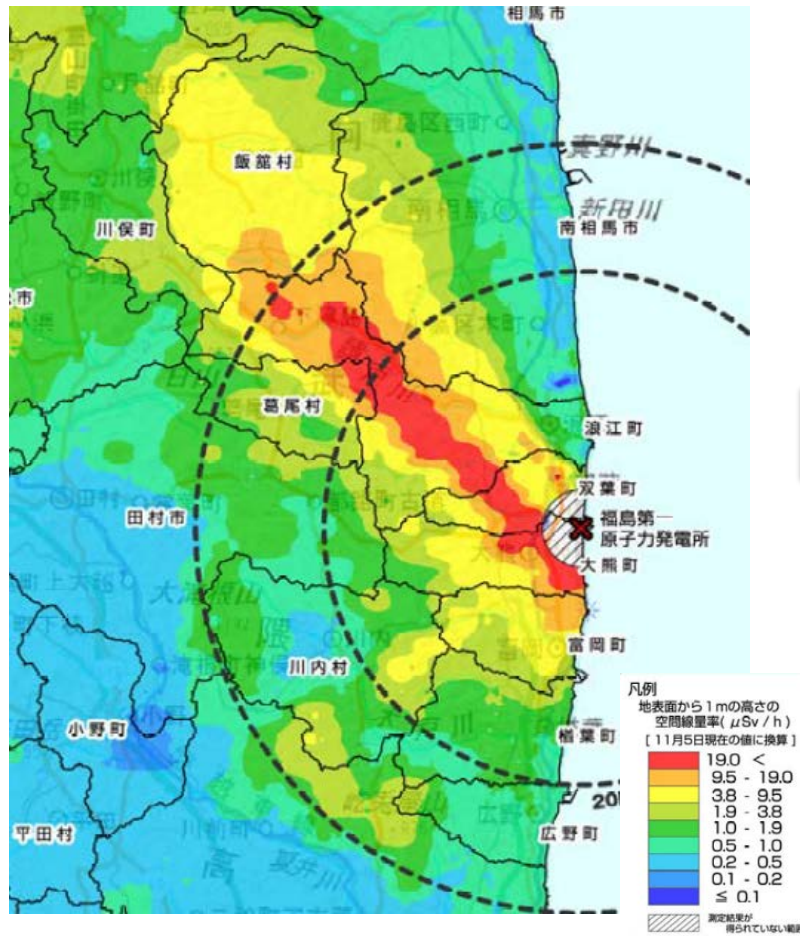
- ・各市町村で**新たな企業が立地**し、雇用を創出。E V用電池の再利用を手がけるフォーアールエナジー（平成30年春操業開始）や導電性繊維を製造するミツフジ（平成30年9月操業開始）など先端的な企業も進出。
- ・**福島イノベーション・コースト構想**による新産業の創出が具体化。ロボット分野では、7月に一部開所した**テストフィールド**を整備中の南相馬・浪江を中心に、**ドローンの開発・実証**が進展。
- ・高校生による「**廃炉創造ロボコン**」など**若者の参画を促進する取り組み**も進んでいる。

なりわい・産業の再生



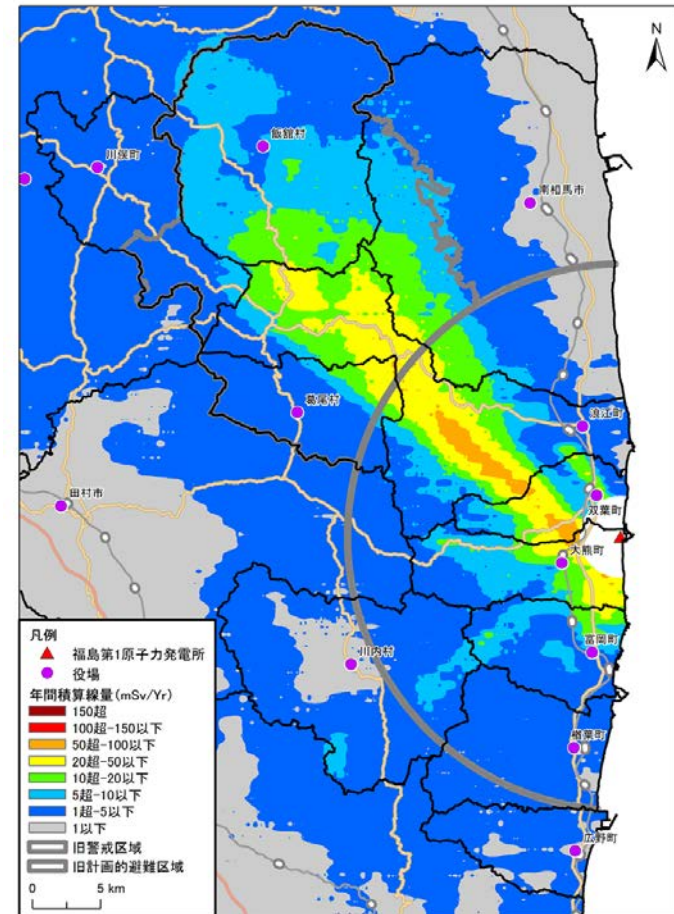
空間線量の推移

平成23年11月時点の線量分布



6
年
後

平成29年11月時点の線量分布



※福島県及びその近隣県における航空機モニタリング(平成30年2月20日公表)より作成

避難指示の解除について

- 事故から6年後の平成29年春までに、**大熊町・双葉町を除き、全ての居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除。**
- 大熊町・双葉町についても、**居住制限区域、避難指示解除準備区域において、役場新庁舎や公営住宅、産業団地等の整備が進展。**また、**大熊町では準備宿泊が開始。**

○居住制限区域、避難指示解除準備区域の解除の経緯

解除日	居住者数	居住世帯数	時点
平成26年4月1日：田村市	229人(80%)	84世帯	平成30年9月30日
平成26年10月1日：川内村（一部）			
平成27年9月5日：楢葉町	3,510人(50%)	1,789世帯	平成30年9月30日
平成28年6月12日：葛尾村	322人(26%)	157世帯	平成30年10月1日
平成28年6月14日：川内村	2,163人(81%)	917世帯	平成30年10月1日
平成28年7月12日：南相馬市	3,396人(38%)	1,509世帯	平成30年9月30日
平成29年3月31日：飯館村	904人	460世帯	平成30年10月1日
川俣町	320人(36%)	145世帯	平成30年10月1日
浪江町	848人	554世帯	平成30年9月30日
平成29年4月1日：富岡町	791人	552世帯	平成30年10月1日

○大熊町、双葉町（町の96%が帰還困難区域(人口ベース)）

- ・大熊町：平成27年3月20日に「大熊町第二次復興計画」を公表。大川原地区（居住制限区域）において、町役場の新庁舎（平成31年4月供用開始予定）や公営住宅、商業施設などを整備中。
また、準備宿泊を平成30年4月24日より開始。
＜準備宿泊登録状況＞人数：37人、世帯数：17世帯（平成30年11月26日時点）
- ・双葉町：平成28年12月20日に「復興まちづくり計画（第二次）」を公表。中野地区（避難指示解除準備区域）において、平成30年度中に産業団地の一部供用開始を予定。

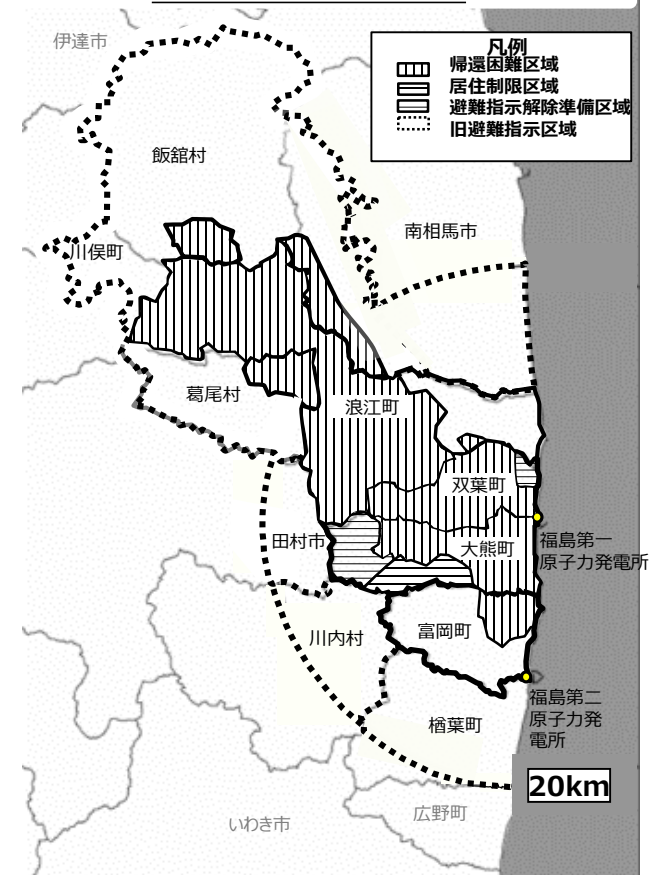
（平成25年8月区域設定時）

（平成30年4月時点）

避難指示区域からの避難対象者数	約8.1万人	区域設定時から 約4年8か月	約2.4万人（約5.7万人減）
避難指示区域の面積	約1,150km ²		約370km ² （約780km ² 減）

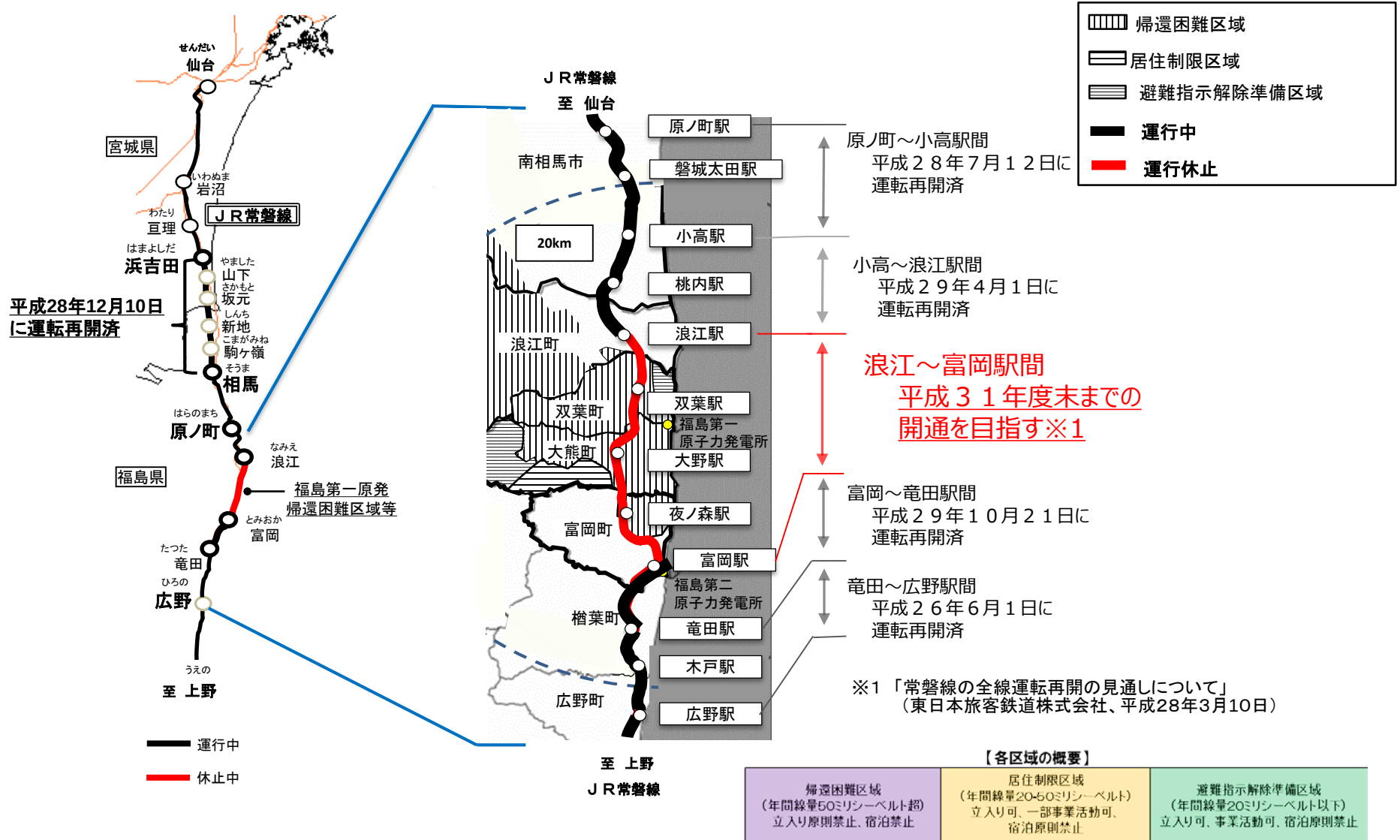
（注）避難指示区域からの避難者数は、市町村からの聞き取った情報（それぞれ、平成25年8月8日時点、平成30年4月1日時点の住民登録数）を基に、原子力被災者生活支援チームが集計。

避難指示区域の概念図



J R 常磐線（避難指示区域内）の開通の見通し

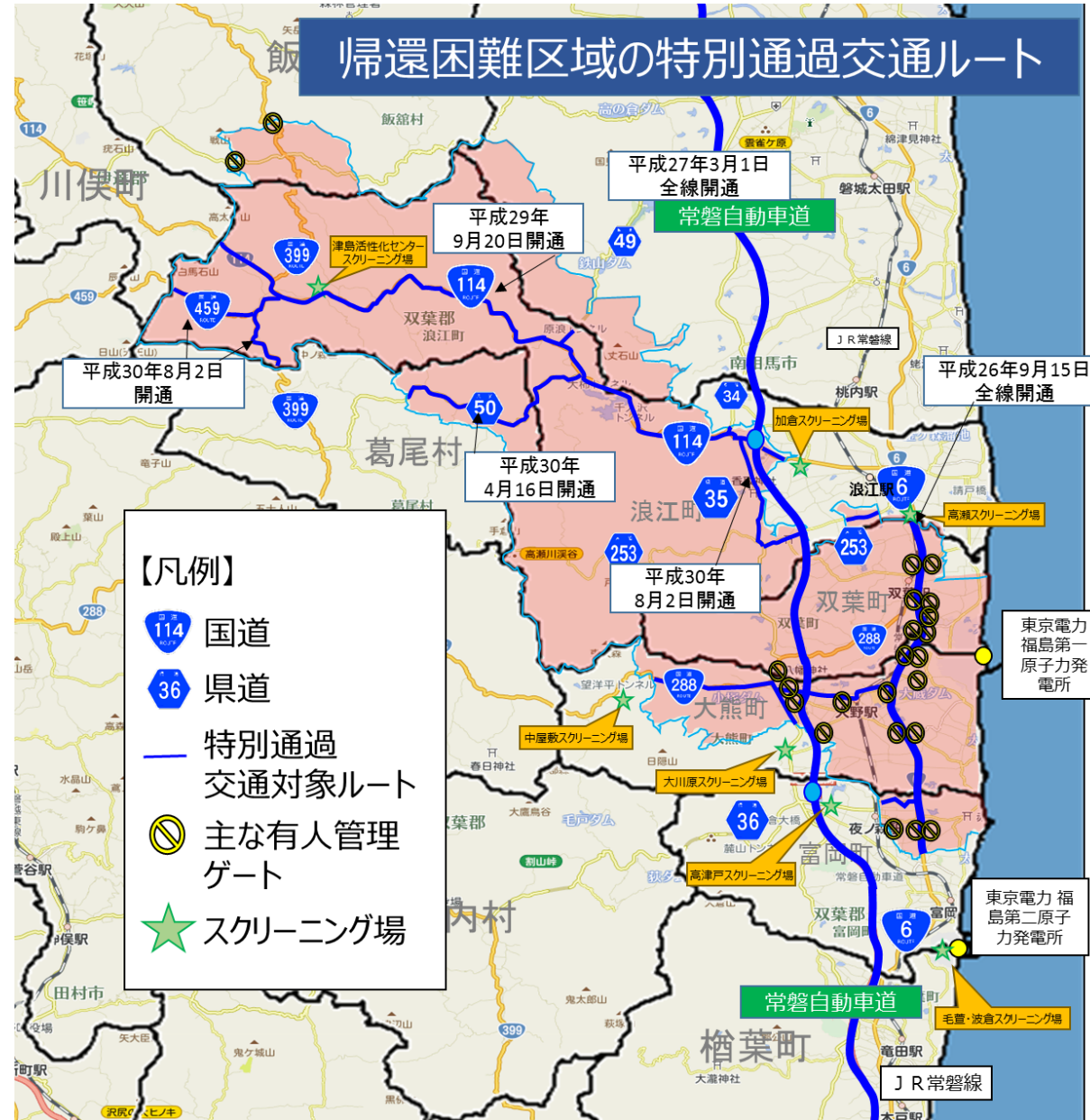
- J R 常磐線は、浪江～富岡駅間以外運転再開済。平成31年度末までの全線開通を目指す。



※線量は平成23年12月26日「ステップ2」の完了を受けた警戒区域及び避難指示区域の見直しに関する基本的考え方及び今後の課題について」原災本部決定時点

帰還困難区域における通行可能ルート

- 被災地の復旧・復興の推進を図るため、**帰還困難区域における主要幹線道路を対象に、一定の要件の下、通過交通を認めている。**
- **国道6号・県道36号**（平成26年9月～）、**国道288号－県道35号の一部区間**（平成27年2月～）、**常磐自動車道**（平成27年3月～）等については、当該制度において通行証の所持・確認が不要なルートとして規定。



避難指示の解除と復興に向けた取組①

田村市

＜平成26年4月
○平成31年度末

避難指示解除準備区域を解除＞
田村市産業団地整備完了予定

＜復興に向けた取組＞

【医療】

平成23年7月より、田村市立都路診療所（内科・整形外科）が診療を再開。



【教育】

平成26年4月より、都路町の都路小学校、都路中学校、都路こども園が再開。



【商業施設等】

平成26年4月に仮設商業施設「Domo」オープン。



楢葉町

＜平成27年9月 避難指示解除準備区域を解除＞

＜復興に向けた取組＞

【医療】

平成28年2月より、県立診療所が開所（内科・整形外科）。



【教育】

平成29年4月より、あおぞらこども園、楢葉小学校、楢葉中学校が再開。



【商業施設等】

町民らの世代を超えた交流と情報発信の拠点となる「みんなの交流館 ならは CANvas」が、平成30年7月に開業。



広野町との境に立地するサッカートレーニング施設『Jヴィレッジ』が平成30年7月に一部再開。平成31年4月の全面再開を目指す。また全面再開にあわせ、常磐線の新駅も整備予定。



川内村

＜平成26年10月

一部地域で避難指示を解除＞

（居住制限区域を避難指示解除準備区域に見直し）

＜平成28年6月14日

避難指示解除準備区域を解除＞

＜復興に向けた取組＞

【医療】

平成24年4月より、村立保険・福祉・医療総合施設「ゆふね」が再開（内科・整形外科・歯科）。



【教育】

平成26年4月より、かわうち保育園、川内小学校、川内中学校が再開。



川内小学校



【商業施設等】

タイ石油公社の協力により、レストラン「カフェ・アメイゾン」が平成28年11月にオープン。



【産業】

田ノ入工業団地において株式会社リセア（スポーツウェア製造等）の川内工場が平成29年12月に竣工。



避難指示の解除と復興に向けた取組②

葛尾村

- ＜平成28年6月 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除＞
 ○平成30年5月 特定復興再生拠点計画が認定
 ○平成34年春ごろ 特定復興再生拠点全域の解除を目標

＜復興に向けた取組＞

【医療】

平成28年7月より
葛尾歯科診療所、
平成29年11月より
葛尾内科診療所が
開所。



【教育】

平成30年4月
より葛尾幼稚園、
葛尾小学校、葛尾中
学校が再開。



【公的施設】

平成30年6月より復
興交流館「あぜりあ」
が開館。



【産業】

旧葛尾中グランド跡
地に金泉ニット株式
会社（ニット製品製
造・販売）福島工場
が平成30年6月に
竣工。



南相馬市

＜平成28年7月 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除＞

- 平成30年度中 小高区の復興拠点施設の開所を目標
 ○平成32年 ワールドロボットサミットのインフラ・災害対応分野の一部競技を「ロボットテストフィールド」で開催予定

＜復興に向けた取組＞

【医療】

平成28年4月より、
もんま整形外科が
再開。また、平成
29年12月より、
上町内科皮膚科
クリニックが再開。



上町内科皮膚科クリニック

【教育】

平成29年4月よ
り、小高区の小高
幼稚園、小高小
学校、小高中学
校が再開。また、
小高産業技術高
校が同月に開校。



小高産業技術高校

【商業施設等】

帰還住民の利便性
と街のにぎわい向上
のため、小高区に小
高ストアが12月に開
所予定。



完成予定図

【産業】

原町区に復興工業
団地を造成。平成30
年7月より、ロボット
テストフィールドが一部
開所。



飯館村

- ＜平成29年3月 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除＞
 ○平成30年4月 特定復興再生拠点計画が認定
 ○平成35年春ごろ 特定復興再生拠点全域の解除を目標

＜復興に向けた取組＞

【医療】

平成28年9月より、い
いたてクリニックが診
療を再開（総合診療
科）。



【教育】

平成30年4月より、ま
でいの里のこども園、
草野・飯樋・白石小
学校、飯館中学校
が再開。



【商業施設等】

平成29年8月に、深
谷地区において、い
いたて村の道の駅
までい館が開業。



川俣町

＜平成29年3月 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除＞

＜復興に向けた取組＞

【教育】

平成30年4月より山
木屋小学校、山木
屋中学校が再開。



【商業施設等】

復興拠点（商業施設）
とんやの郷が平成29
年7月にオープン。



【産業】

川俣西部工業団地にミ
ツウ株式会社（繊維
業）福島工場が平
成30年9月に竣工。



避難指示の解除と復興に向けた取組③

浪江町

- ＜平成29年3月
- 平成29年12月
- 平成31年度末
- 平成32年
- 平成35年3月

居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除
 特定復興再生拠点計画が認定
 ロボットテストフィールドの滑走路の整備を目標
 大規模水素製造拠点施設を整備予定
 特定復興再生拠点全域の解除を目標

＜復興に向けた取組＞

【医療】

平成29年3月より、町立浪江診療所が開所（内科、外科）。



【教育】

平成30年4月よりにじいろこども園が開園、なみえ創成小学校、なみえ創成中学校が開校。



にじいろこども園

【産業】

棚塩地区に工業団地を造成、ロボットテストフィールドや水素製造拠点を建設。平成32年度中の完成を目指す。



富岡町

- ＜平成29年4月
- 平成30年2月
- 平成31年度
- 平成35年春ごろ

居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除
 特定復興再生拠点計画が認定
 産業団地完成予定
 特定復興再生拠点全域の解除を目標

＜復興に向けた取組＞

【商業施設等】

平成29年3月に複合商業施設（さくらモールとみおか）が全面開業。



【教育】

平成30年4月より富岡町立小学校、富岡町立中学校が再開。



【医療】

平成28年10月にとみおか診療所（内科、外科、精神科）、平成29年4月に富岡中央医院（内科、小児科、外科、麻酔科）が開所。また、平成30年4月に、2次救急医療施設「ふたば医療センター-附属病院」が開院（内科、救急科）。



大熊町

- 平成29年11月
- 平成31年3月
- 平成31年度末ごろ
- 平成34年春ごろ

特定復興再生拠点計画が認定
 役場新庁舎完成予定、常磐道大熊IC供用開始予定
 JR常磐線大野駅周辺等の一部地域の解除を目標
 特定復興再生拠点全域の解除を目標

＜復興に向けた取組＞

【復興拠点】

平成29年9月より大川原地区復興拠点の整備を開始。まずは30年度中に役場新庁舎の完成を目指す。



平成32年3月末に大野駅と駅周辺の一部の避難指示解除を目指す。



JR大野駅周辺イメージ

【交通】

常磐自動車道から大川原地区へのアクセス確保のため、大熊ICの平成30年度末供用開始を目指す。



大熊IC 国交省Webより

双葉町

- 平成28年12月
- 平成29年9月
- 平成31年度
- 平成31年度末ごろ
- 平成34年春ごろ

「復興まちづくり計画（第二次）」を策定
 特定復興再生拠点計画が認定
 常磐道双葉IC（仮称）供用開始予定
 産業拠点の整備を進める中野地区を含む避難指示解除準備区域と、JR双葉駅周辺の一部区域の解除を目標
 特定復興再生拠点全域の解除を目標

＜復興に向けた取組＞

【復興拠点】

平成30年1月に中野地区産業拠点の整備を開始。平成32年度中の完成を目指す。



平成32年3月末に双葉駅と駅周辺の一部の避難指示解除を目指す。



JR双葉駅と自由通路の整備イメージ

【交通】

常磐自動車道から拠点区域へのアクセス確保や中間貯蔵施設への輸送ルート確保のため、（仮称）双葉ICを整備し、平成31年度末の供用を目指す。

帰還困難区域における特定復興再生拠点区域の整備①

- 福島特措法の改正により、帰還困難区域の復興及び再生を推進する計画制度を創設。
- 既に**6町村（双葉、大熊、浪江、富岡、飯館、葛尾）**の計画が認定され、**除染・インフラ整備等が開始**されたところ。
- 解除をめざし、**町村、県、国が一体となった「推進会議」を設置し、計画の具体化を推進。**

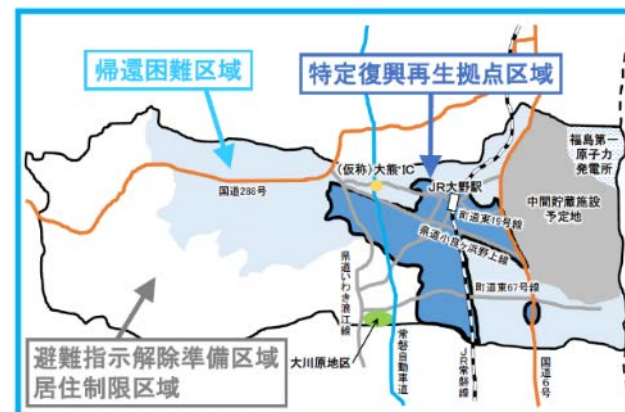
認定済みの特定復興再生拠点区域復興再生計画概要

双葉町（平成29年9月15日認定）



- ・ 区域面積：約555ha ・ 居住人口目標：約2,000人
- ・ 避難指示解除の目標
平成31年度末頃まで：JR常磐線双葉駅周辺の一部区域
平成34年春頃まで：特定復興再生拠点区域全域

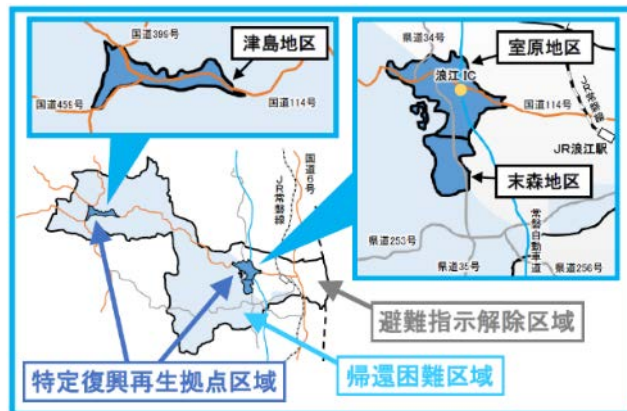
大熊町（平成29年11月10日認定）



- ・ 区域面積：約860ha ・ 居住人口目標：約2,600人
- ・ 避難指示解除の目標
平成31年度末頃まで：JR常磐線大野駅周辺等の一部区域
平成34年春頃まで：特定復興再生拠点区域全域

帰還困難区域における特定復興再生拠点区域の整備②

浪江町（平成29年12月22日認定）



- ・ 区域面積：約661ha ・ 居住人口目標：約1,500人
- ・ 避難指示解除の目標：平成35年3月
(ただし、早期に整備が完了した区域から先行する。)

富岡町（平成30年3月9日認定）



- ・ 区域面積：約390ha ・ 居住人口目標：約1,600人
- ・ 避難指示解除の目標：
平成31年度末頃まで：JR常磐線夜ノ森駅周辺の一部区域
平成35年春頃まで：特定復興再生拠点区域全域

飯館村（平成30年4月20日認定）



- ・ 区域面積：約186ha ・ 居住人口目標：約180人
- ・ 避難指示解除の目標：平成35年春
(ただし、早期に整備が完了した区域から先行する。)

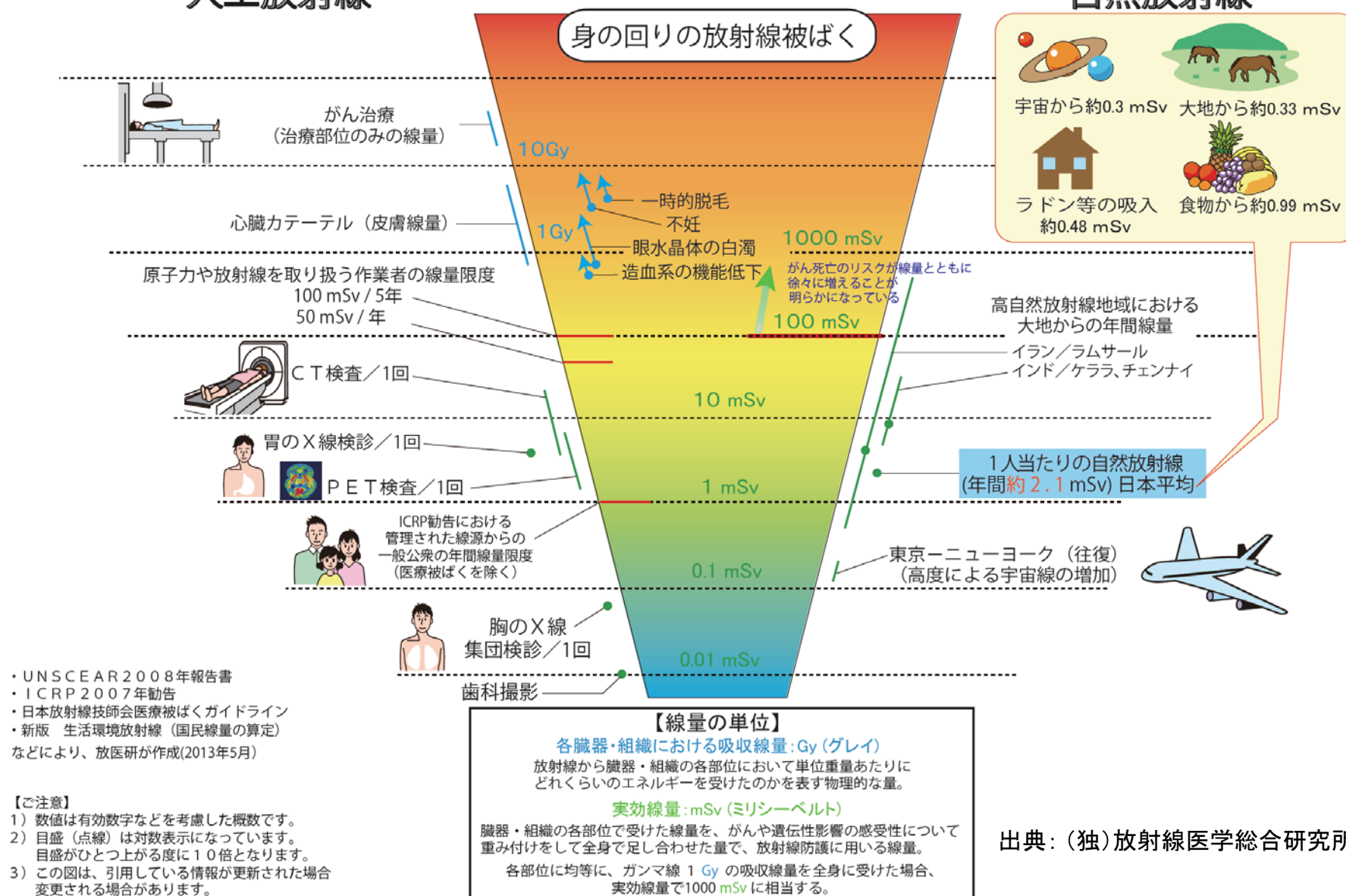
葛尾村（平成30年5月11日認定）



- ・ 区域面積：約95ha ・ 居住人口目標：約80人
- ・ 避難指示解除の目標：平成34年春

人工放射線

自然放射線



出典: (独)放射線医学総合研究所

- 放射線と他の発がん要因等のリスクとを比較すると、例えば喫煙は1,000～2,000ミリシーベルト、肥満は200～500ミリシーベルト、野菜不足や受動喫煙は100～200ミリシーベルトのリスクと同等とされる。

放射線の線量 (ミリシーベルト/短時間1回)	がんの相対リスク(倍) [※]	生活習慣因子
1000 - 2000	1.8 1.6 1.6	喫煙者 大量飲酒(毎日3合以上)
500 - 1000	1.4 1.4	大量飲酒(毎日2合以上)
200 - 500	1.19 1.29 1.22 1.15-1.19 1.11-1.15	やせ(BMI<19) 肥満(BMI≥30) 運動不足 高塩分食品
100 - 200	1.08 1.06 1.02-1.03	野菜不足 受動喫煙(非喫煙女性)
100 以下	検出不可能	

【出典データ】国立がん研究センター

※リスク要因となる行為をしない場合を1として、行為をした場合のリスクが何倍になるかを示した値のこと。